

平成30年度 学校関係者評価書

		学校名		北海道登別青嶺高等学校															
1 本年度の重点目標						組織名		学校評議員											
(1) 基本的な学習姿勢を身に付け、目標を持って学力を積み上げる努力をする生徒 (2) 自他を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじて的確に判断し行動できる生徒 (3) 自己理解を深め、自らの個性と適性に基づいて進路目標を確立し、自己実現を目指す生徒						評 価 者													
重点目標の適切さ		・おおむね良好であり、重点目標は適切であると思う。 ・前年に比べ学校が落ち着き大きく変化した。これは目標を達成するために教師が積極的に取り組み、努力した結果であるのではないか。				学校が行った自己評価の結果の内容が適切かどうか評価を行う。 A(適切な評価である) B(ほぼ適切な評価である) C(やや不適切な評価である)													
2 自己評価結果																			
		評価項目・指標等		達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の結果の内容の適切さ				取組の適切さ				今後の改善の方策の適切さ				
大項目	中項目	小項目					A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
学習指導	教育課程	生徒の実態に即した教育課程編成		D	B	今後の本校の在り方について、新学習指導要領・地域に根ざした学校を踏まえ、将来構想委員会を立ち上げ、教育課程の見直しを進めている。 朝読書・朝学習の継続により、学習習慣の定着を図り、家庭学習の定着へ働きかける。 概ね整然と授業が行われているが、生徒自身が主体的に学ぶ意識の向上が課題であり、興味・関心を持つ教材・授業展開の工夫を図る。 また、地域の教育資源を活用し生徒の学ぶ意欲を喚起する。	1	1	2	1		2	2	1		2	2		
	学力向上	基礎・基本を大切にする指導		B	B		2	3			2	3			1	3			
		家庭学習の促進など学習習慣の定着を図る取組の促進		D	C		1	1	2	1	1	2	2		1	2	1		
		朝読書や朝学習など朝の時間の有効活用		A	A		4	1			5				4				
	授業改善	授業規律の確立		B	C		2	3			1	4			2	2			
		言語活動の充実や問題解決的な学習		B	B			3	2			3	2		1	2	1		
		観点別評価など評価の工夫		C	B		1	1	3		1	3	1		1	3			
		学ぶ意欲を喚起する学習指導の工夫		C	B		1	1	3		1	2	2		1	3			
評価者の意見等		生徒の実態と教育課程編成の見直しが急務である。																	
生徒指導	規範意識	規範意識が涵養される生徒指導の推進		B	B	携帯電話の預かりにより成果が出ているが、生徒が主体となり管理できる情操教育を図る。 個人での全国大会出場と活躍しているが、生徒数の割に部活動の数が多く、集団種目での充実に課題がある。現状を充分に把握し、改善を図る。 アンテナを高くし早期に対応することで未然に防ぐことができた。継続して実施する。	1	3	1		2	3			2	2			
	自主的主体的活動	スマートフォン等に頼らないコミュニケーション力づくり		A	A		5				5				4				
		活発な生徒会活動		B	B		2	3			1	2	2		2	2			
		部活動の充実・活性化		D	C			1	1	3		1	2	2		1	2	1	
	いじめ	いじめ防止に関する適切な啓発及び対策		B	A		2	3			2	2	1		2	2			
評価者の意見等																			
進路指導	進路実現	上位層の学力伸長に係る取組の推進		D	B	講習、添削等により継続指導を行う。 ホームページ、学校だより等のさらなる充実を図る。 継続して実施する。 メンター制の見直しを図り効果的な指導を図る。	2	1		2	2	1	1	1		2	2		
	キャリア教育の推進と進路情報提供	保護者に対する十分な進路情報の提供		B	B		2	3			3	2			2	2			
		生徒との進路にかかる個別相談の充実		A	A		5				5				4				
		系統的進路指導の推進		C	B		1	2	2		2	2	1		1	2	1		
評価者の意見等		国公立大学への現役進学への指導をはじめ、個に応じた指導はすばらしい。																	
健康安全指導	心身の健康	生徒全員の個別面談の実施と教育相談活動の充実		A	A	「ほっと」「Q-U」等の検査結果を分析し、教育相談へと結びつけるとともに、引き続きスクールカウンセラーの活用を図る。 教職員で情報の共有を図る。 生徒への美化活動の意識付けを図る。 異校種の取組を参考によりよい方策のため改善を図る。 職員への周知、学校閉片日の設定、部活動休養日の遵守を図る。	5				5				4				
		スクールカウンセラーの活用による教育相談機能の強化・充実		A	A		5				5				4				
		特別支援教育への理解の促進		C	C		2	1	2		1	2	2		4				
	美化活動	校舎内外の清掃・環境整備		B	B		1	4			1	4			4				
		防災	生徒の主体的行動を高める防災意識の涵養		C		C	1	2	2		2	2	1		4			
			業務改善や教員の働き方改革への取組		C		B	1	1	3		2	1	1		2	2		
評価者の意見等																			
信頼される学校づくり	地域連携とPTA活動の活性化	PTA便り・学校通信・HP・ライテンスクールなど発信の強化		A	A	今年度、市内の中学校を訪問したことで中学校との距離を大きく近づけることができた。更に異校種・地域と連携を重視することで改善を図る。	4	1			5				3	1			
		地元中学校との情報交換、部活動などの交流		C	C		2	2	1		4	1			2	2			
		学校行事への参画の推進などPTA活動の活性化		C	B		1	2	2		1	2	2		2	2			
評価者の意見等		PTAに限らず地域社会との連携を強く望みます。																	
組織運営	教職員の連携強化	教職員の学校経営参画意識を持った主体的取組の前進		C	C	前年踏襲ではなく積極的に改善を図ることで大きな成果を得た。個に任せるのではなく積極的な日常会話から夢を持ち学校全体でチャレンジする気風ができてつある。 職員会議、朝の打合せ等を活用し教育情報の共有化を図る。	1	1	3			2	3			3	1		
		教職員同士の意思の疎通と組織的運営		B	B		1	4			5				4				
		的確な反省引き継ぎなど事業・行事実施後の成果と課題の把握		D	C		1	1	2	1		2	3			2	2		
		教育課題や教育情報の共有化と共通認識の促進		C	C		2	1	2		2	2	1		1	3			
評価者の意見等		教職員間の連携や情報交換に努めてください。																	
資質向上	研修等の充実	校外での研修への参加と積極的な教科内研修の実施		D	C	希望があった研修はすべて受講できた。研修で得た情報を全教師で共有し効果的な研修活用を図る。 教科内研修・授業見学が容易にできるように時間割等を工夫し教師の資質向上を図る。 徴収金は担任・担当・事務長・教頭が連携し学校として対応した。次年度も組織対応を継続する。	1		2	2	1	1	3		2	2			
		徴収金に対する適正な管理と意識改革		A	A		5				5				3				
		教職員と保護者との連携		C	B		1	1	3		2	1	2		1	2	1		
		授業観察や助言による教職員の資質向上		D	C		1		2	2	1	1	3		1	2	1		
評価者の意見等		校外研修を否定しませんが、教員同士の研修(意見交換)の方が充実した内容を得ることができると思います。																	